



# **Exastro**

## **CloudSystemテンプレート1st-Model オートスケーリングWebシステム 導入手順書**

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」、「CloudSystemテンプレート1st-Model  
オートスケーリングWebシステム」を「CSテンプレート」として記載します。

第1.0版 (ITAバージョン1.5.0版)  
Exastro developer

# 目次

## 1. はじめに

1. 本資料について／導入手順フロー
2. CSテンプレート導入イメージ
3. ITAユーザー／IAMユーザーの役割と運用方法

## 2. 導入準備

1. 導入準備

## 3. 導入手順

1. CSテンプレート導入ファイルダウンロード
2. CSテンプレート導入ファイルインポート
3. 機器一覧\_登録ホストのログイン情報変更
4. プロキシ情報の登録
5. ITAユーザーのパスワード変更
6. システム管理者のAWSアカウント情報登録
7. AWS管理者のIAMユーザー作成実行と登録
8. インフラ管理者&インフラユーザーのIAMユーザー作成実行と登録
9. オートスケール用パラメータの登録

## 4. 補足

1. システム管理者&AWS管理者のパラメータ廃止と復活
2. Teams連携通知の登録
3. メニューグループ／メニュー概要
4. Conductorの参照パラメータ

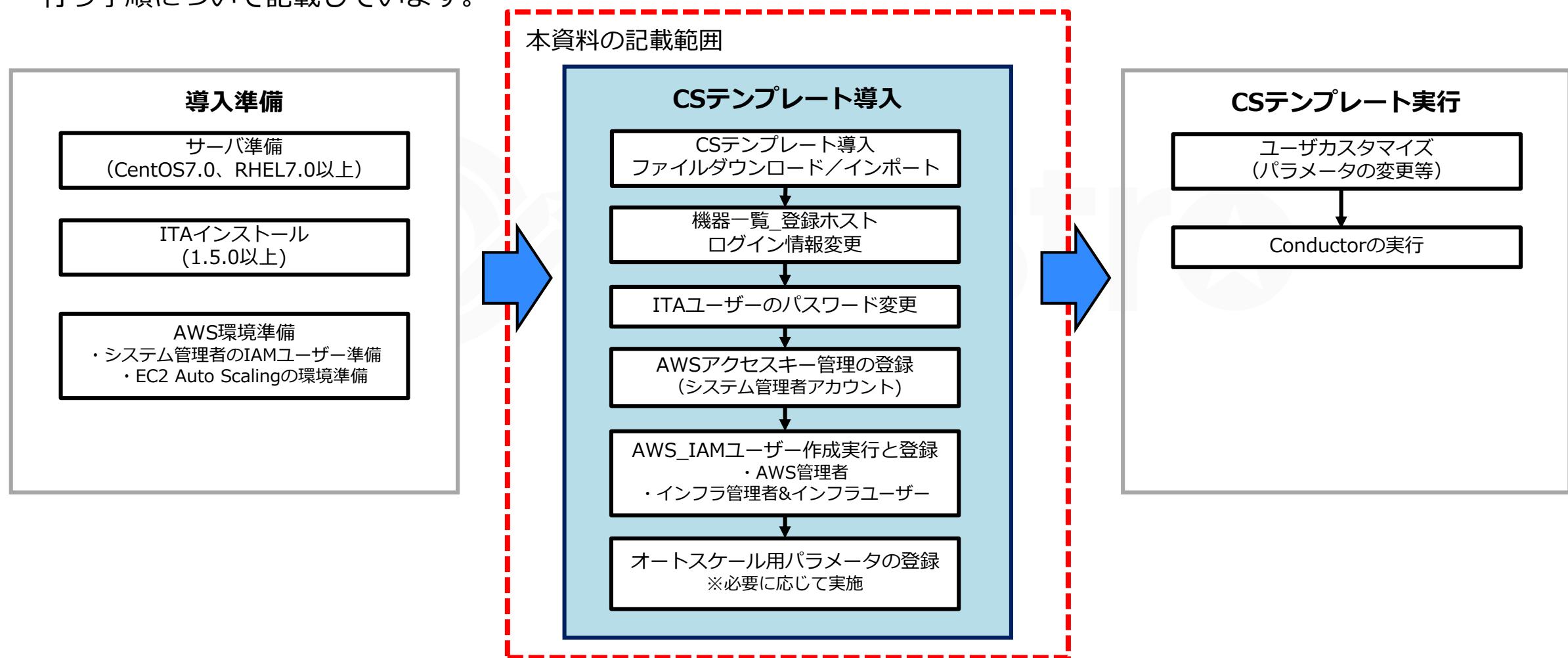
# 1. はじめに



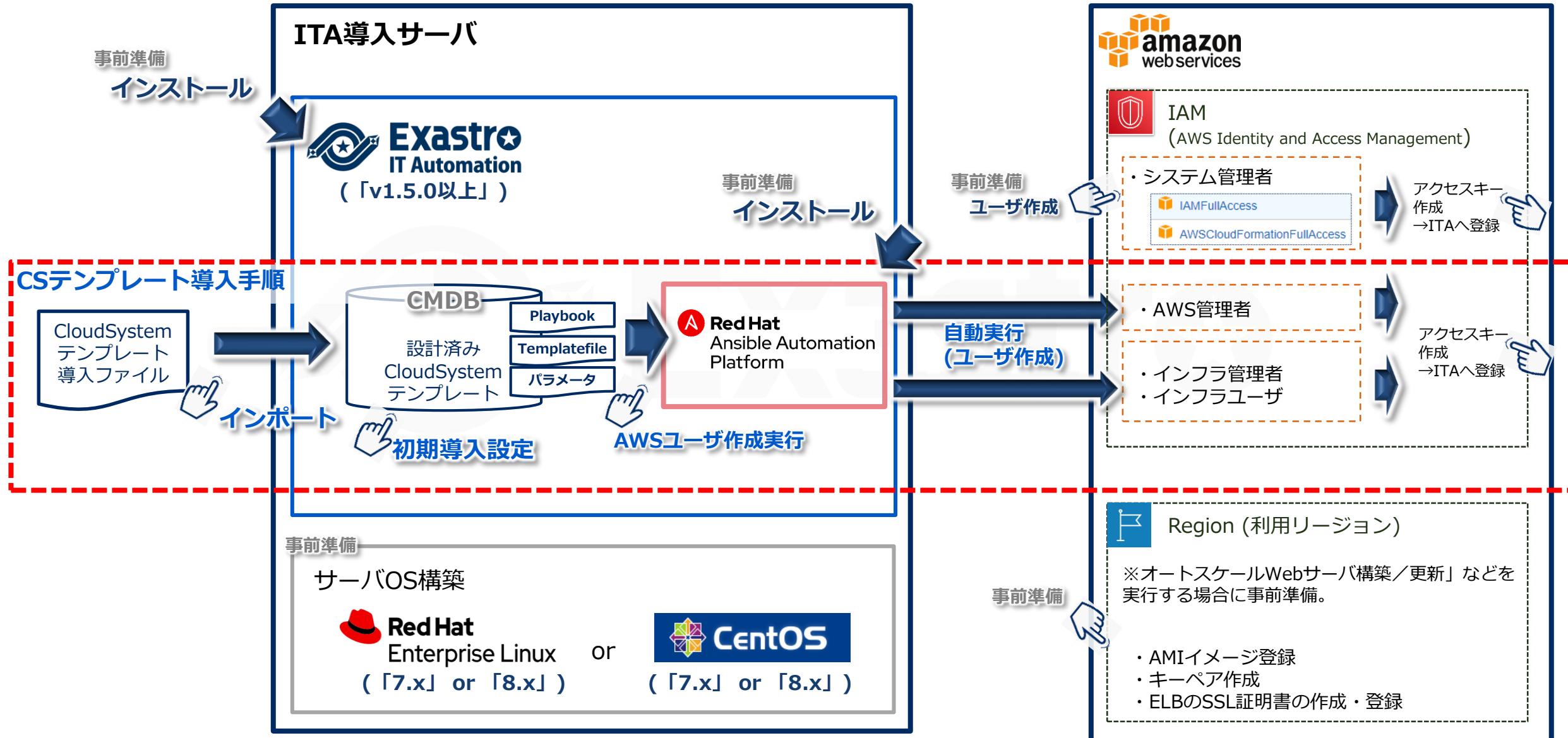
# 1.1 本資料について／導入手順フロー

## 本資料について

- 本資料は、ITAサーバにCSテンプレート導入ファイル(パッケージファイル)のインポート、及び、初期設定を行なう手順について記載しています。



## 1.2 CSテンプレート導入イメージ



# 1.3 ITAユーザー／IAMユーザーの役割と運用方法

## ITAユーザー／IAMユーザーの役割

CSテンプレートでは、運用業務によりアクセス権限や操作権限※2を、ロールごとに制限する運用をポリシーとしており、そのポリシーに従いIAMユーザを作成しての運用を推奨しています。

※1 システム管理者のみで運用することも可能です。

※2 下位権限のユーザのConductorの実行を制限する場合は、補足4.1を参照ください。

ITA ユーザー名(初期値)	AWS ログインID(初期値)	AWS IAMユーザー名(初期値)	権限概要	想定業務
システム管理者	administrator	(事前準備)	・ITAの操作全般	・kymファイルをインポート/エクスポート ・ITA初回セットアップ ・AWS管理者を作成する ・ITA全般に関する設定を変更
AWS管理者	aws-admin	cloud-system-aws-admin パラメータにより変更可能	・IAMユーザーの構築/更新/削除 ・IAMユーザーに関するメニューの操作権限	・インフラ管理者・インフラユーザーを作成する ・必要に応じてIAMユーザーのパラメータを変更 ・不要なIAMユーザーを削除
インフラ管理者	infra-admin	cloud-system-infra-admin パラメータにより変更可能	・対象システムの構築/更新/削除 ・対象システムに関するメニューの操作権限	・対象システムのパラメータを管理する ・対象システムの構築/削除を実行する ・必要に応じて対象システムを更新する ・ITA登録ファイル(プレイバック、テンプレートファイル等)を追加/変更する ・テンプレートファイルを新規追加した際にパラメータメニューを作成する
インフラユーザー	infra-user	cloud-system-infra-user パラメータにより変更可能	・対象システムのコンテンツを更新 ・必要なメニューの操作権限	・AWSマネジメントコンソールでシステムをモニタリングする ・コンテンツ更新に関するパラメータを管理する ・コンテンツ更新を実行する ・オペレーションの追加はしない
CloudSystem テンプレートAPI	cloud-system-template-api	無し	・一部のメニュー操作権限	・Movement「機器一覧同期」「機器一覧初期化」を実行する

## 2. 導入準備



## 2.1 導入準備 (1/3)

### ● サーバ準備

ITAをインストールするサーバを用意します、サーバ動作要件は以下のドキュメントの [4頁 システム要件] を参照ください。

また本サーバはAWSと接続できる環境を用意してください。 (http／https／ssh通信)

[ITA システム構成／環境構築ガイド 基本編](#)

### ● ITAインストール

- ・ ITAバージョンは1.5.0以上のものをインストールしてください。
- ・ インストール時のアンサーファイル (ita\_answers.txt) では、以下の機能のインストール指定をしてください。  
(※インストーラーのデフォルト指定)

```
ita_base:yes  
material:no  
createparam:yes  
hostgroup:yes  
ansible_driver:yes  
cobbler_driver:no  
openstack_driver:no  
terraform_driver:no
```

- ・ インストール手順は以下ドキュメントを参照ください。

[ITAオンラインインストール手順](#)

## 2.1 導入準備 (2/3)

### ● AWS環境準備

#### ①システム管理者のIAMユーザー準備

以下のIAMポリシーをアタッチしたIAMユーザーの「アカウントID」「アクセスキー」「シークレットキー」を用意してください。

- IAMFullAccess
- AWSCloudFormationFullAccess

※システム管理者のみで運用する場合は、上記に加え以下のポリシーも必要です。

- ec2:DescribeInstances
- elasticloadbalancing:Describe\*
- s3:\*

【参考】 IAMユーザーアクセスキー／シークレットキーの作成手順概要（AWSマネジメントコンソールにて実施）

- 1.IAM > ユーザー > 「IAMユーザー準備」で用意したユーザー名を押下
- 2.認証情報 > アクセスキーを作成を押下
- 3.アクセスキーIDとシークレットアクセスキーが表示されるのでそれを取得する



## 2.1 導入準備（3/3）

### ②EC2 Auto Scaling利用の環境準備

CSテンプレートの「オートスケールWebサーバ構築／更新」などを実行する場合、  
EC2 Auto Scaling機能にて自動構築するEC2インスタンス向けに利用するリージョン（※1）ごとに、  
以下の環境・設定情報を用意してください。

【参考】環境準備／情報取得の手順概要（AWSマネジメントコンソールにて実施）

#### ◆AMI

EC2 > イメージ> AMI に使用するAMIイメージを登録し「AMI ID」を取得。

#### ◆キーペア（※踏み台サーバ用とWebサーバ用に認証鍵を分ける場合は、キーペアを2つ準備します）

EC2 > ネットワーク&セキュリティ > キーペア の「キーペアを作成」から作成し、  
「キーペア（pemファイル）」と「キーペア名」を取得。

#### ◆ELB用のSSL証明書

Certificate Manager に証明書を登録し「ARN（リソースネーム）」を取得。

（※1） AWS環境準備時のリージョンと、ITA共通パラメータのAWSリージョン情報は、合わせる必要がありますので、  
必要に応じて更新します。また環境ごとにリージョンが異なる場合はオペレーションごとにリージョンを登録します。

現在以下のリージョンで動作確認済で、マスタ管理のAWSリージョンに初期登録されています。

- ap-northeast-1 アジアパシフィック（東京） ※サンプルのオペレーション「環境A」では、本リージョンが初期設定されています。
- ap-southeast-1 アジアパシフィック（シンガポール）
- ap-southeast-2 アジアパシフィック（シドニー）
- us-east-1 米国東部（バージニア北部） ※サンプルのオペレーション「環境B」では、本リージョンが初期設定されています。



### 3 導入手順

### 3.1 CSテンプレート導入ファイルダウンロード

#### CSテンプレート導入ファイルダウンロード

- 以下URLからCSテンプレート導入ファイルをダウンロードしてください。

URL : <https://github.com/exastro-suite/Settings-CloudSystemTemplate-1st/releases>  
ファイル名 : cloud-system-template-aws-ce-1.0.0-exastro-1.5.0.kym



### 3.2 CSテンプレート導入ファイルインポート (1/3)

以降のITAの作業は「administrator（システム管理者）」で実施してください

#### CSテンプレート導入ファイルインポート

- 「エクスポート/インポート」>「メニューインポート」>「ファイルを選択」  
3.1でダウンロードしたファイル (cloud-system-template-aws-ce-1.0.0-exastro-1.5.0.kym) を選択して  
「アップロード」を押下



## 3.2 CSテンプレート導入ファイルインポート (2/3)

### CSテンプレート導入ファイルインポート

- ファイルのアップロードが完了したらすべてのメニューを選択して、画面最下部の「インポート(廃止を除く)」を押下



## 3.2 CSテンプレート導入ファイルインポート (3/3)

### CSテンプレート導入ファイルインポート

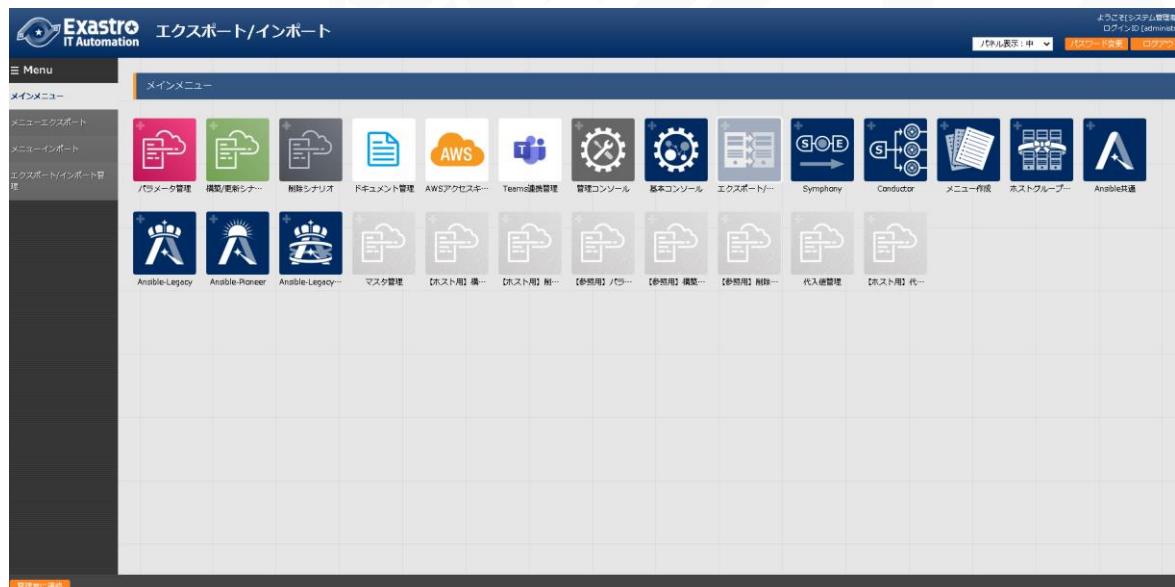
- 「エクスポート/インポート」>「エクスポート/インポート管理」>「フィルタ」を押し下し、インポートが完了しているか確認。

The screenshot shows a table with one row of data:

実行No.	ステータス	処理種別	インポート種別	ファイル名	最終更新日時	最終更新者
4	完了	インポート	通常	<a href="#">4_cloud-system-template-aws-ee-1.0.0-exastro-1.4.1.kym</a>	2020/07/14 14:12:04	データポータビリティプロセッサー

Below the table, it says "フィルタ結果件数: 1".

- インポートが完了している場合、メインメニューは以下のように表示されます。



### 3.3 機器一覧\_登録ホストのログイン情報変更

#### 機器一覧\_登録ホストのパスワード変更

- 「基本コンソール」>「機器一覧」>「フィルタ」>「更新」

必要なログイン情報を入力して「更新」を押下

※ログイン情報につきましてはSSH接続可能かつ、Ansible playbookの動作可能なサーバ／ユーザIDを指定します。  
ご利用環境に適した設定をご入力下さい



#### POINT

パスワード認証の場合

ログインユーザID：SSH接続かつAnsible playbookを実行可能なユーザID  
ログインパスワード：上記で入力したユーザIDのパスワードを入力

SSH鍵認証をご利用の場合、[利用手順マニュアル 基本コンソール](#)のP10 機器一覧の項目をご参照ください。

## 3.4 プロキシ情報の登録

ITA導入サーバーがAWSとの接続にプロキシサーバーを使用する環境である場合、本手順を実行してください。

### プロキシ情報の登録

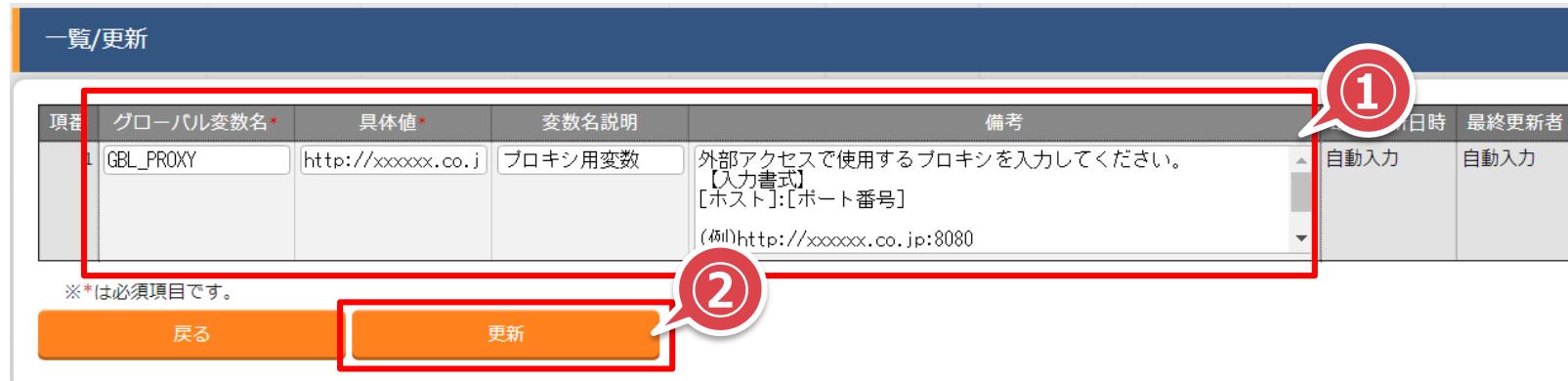
- 「Ansible共通」>「グローバル変数管理」>「フィルタ」>「更新」  
「具体値」にプロキシサーバーの情報を入力して「更新」を押下

一覧/更新

項目	グローバル変数名*	具体値*	変数名説明	備考	日時	最終更新者
1	GBL_PROXY	http://xxxxxx.co.jp	プロキシ用変数	外部アクセスで使用するプロキシを入力してください。 【入力書式】 [ホスト]:[ポート番号] (例)http://xxxxxx.co.jp:8080	自動入力	自動入力

\* \*は必須項目です。

戻る 更新



### 3.5 ITAユーザーのパスワード変更 (1/4)

#### ITA管理者ユーザのパスワード変更

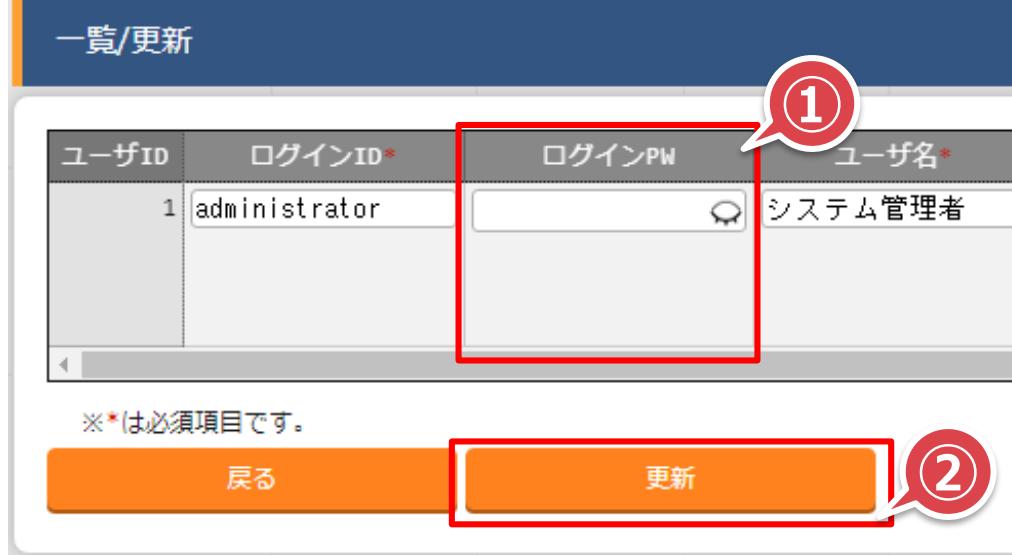
- 「管理コンソール」>「ユーザ管理」>ログインID「administrator」の「更新」を押下  
「ログインPW」に任意のパスワードを入力して「更新」を押下  
同様の手順で「aws-admin」「infra-admin」「infra-user」のパスワードも変更してください。  
※デフォルトパスワードは全て「password」となっています。

一覧/更新

ユーザID	ログインID*	ログインPW	ユーザ名*
1	administrator	<input type="password"/>	システム管理者

※\*は必須項目です。

戻る 更新



### 3.5 ITAユーザーのパスワード変更 (2/4)

#### API連携用ユーザのパスワード変更

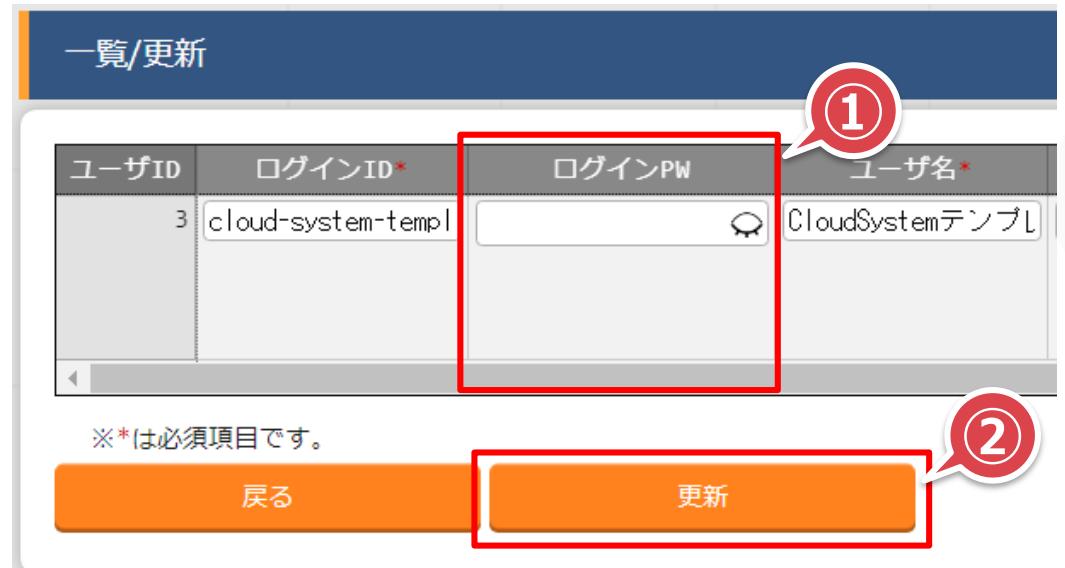
- 「管理コンソール」>「ユーザ管理」>ログインID「cloud-system-template-api」の「更新」を押下  
「ログインPW」に任意のパスワードを入力して「更新」を押下
- ※ 「cloud-system-template-api」はAWSに作成されたインスタンスをITA 機器一覧へ登録する際に利用されるユーザです

一覧/更新

ユーザID	ログインID*	ログインPW	ユーザ名*
3	cloud-system-templ	<input type="password"/>	CloudSystemテンプレ

\*<sup>\*</sup>は必須項目です。

戻る 更新



### 3.5 ITAユーザーのパスワード変更 (3/4)

#### API連携用ユーザのパスワード変更

- 「Ansible共通」>「ファイル管理」>ファイル埋込変数「CPF\_DEVICE\_LIST\_SYNC」の「ファイル素材」を押下してファイルをダウンロード

一覧/更新

更新	廃止	素材ID	ファイル埋込変数名	ファイル素材	備考	最終更新日時	最終更新者
更新	廃止	1	CPF_STARTUP	<a href="#">ec2_userdata</a>	WEBサーバの起動時設定	2020/08/17 16:51:17	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	2	CPF_SECRET_KEY_BASTION	<a href="#">dummy_key.pem</a>	踏み台サーバの認証鍵	2020/08/25 11:47:40	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	3	CPF_SECRET_KEY_WEB	<a href="#">dummy_key.pem</a>	WEBサーバの認証鍵	2020/08/25 11:47:53	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	4	CPF_IMAGEFILE	<a href="#">exastro-logo.png</a>	Webサーバ表示画像	2020/08/24 14:21:07	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	5	CPF_AWS_SDK	<a href="#">aws_sdk.zip</a>	AWS SDK for PHP (Version 3)	2020/08/24 14:20:54	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	6	CPF_DEVICE_LIST_SYNC	<a href="#">device_list_sync</a>	機器一覧同期モジュール	2020/08/19 16:04:29	データポータビリティプロシージャ

フィルタ結果件数: 6

[Excel出力](#)

### 3.5 ITAユーザーのパスワード変更 (4/4)

#### API連携用ユーザのパスワード変更

- ダウンロードしたファイルをテキストで開き、以下の箇所を修正

ファイル埋込変数「CPF\_DEVICE\_LIST\_SYNC」の「更新」>「ファイルを選択」

修正をしたファイルを選択して「事前アップロード」を押下し、アップロードが完了したら「更新」を押下

17行目 : // API実行ユーザーのパスワード  
18行目 : const USER\_PW = "\*\*\*\*\*";

ユーザ管理で[cloud-system-template-api]に  
設定した任意のパスワードに変更

一覧/更新

素材ID	ファイル埋込変数名*	ファイル選択
6	CPF_DEVICE_LIST_SYNC	現在アップロードされているファイル: device_list_sync [ファイルを選択] device_list_sync [事前アップロード] アップロード状況: アップロードしました。 ファイル名 device_list_sync サイズ23588bytes

\*<sup>\*</sup>は必須項目です。

戻る 更新

### 3.6 システム管理者のAWSアカウント情報登録

#### AWSアクセスキー管理\_システム管理者の登録

- 「AWSアクセスキー管理」>「システム管理者」>「登録」>「登録開始」  
「ホスト名」「オペレーション」を選択し、「アカウントID」「アクセスキー」「シークレットキー」を  
入力して「登録」を押下

登録

No	ホスト名*	オペレーション*	パラメータ		
自動入力			アカウントID*	アクセスキー*	シークレットキー*

※\*は必須項目です。

戻る 登録

#### POINT

ホスト名	: 本ITA導入サーバのホスト名を選択 (デフォルトは" exastro-it-automation")
オペレーション	: 任意のオペレーションを選択
アカウントID	: AWS環境準備で用意したアカウントIDを入力
アクセスキー	: AWS環境準備で用意したアクセスキーを入力
シークレットキー	: AWS環境準備で用意したシークレットキーを入力

### 3.7 AWS管理者のIAMユーザー作成実行と登録 (1/3)

「AWS管理者」の「ユーザー名」「初回パスワード」「グループ名」をCSテンプレートの  
「デフォルト値から変更する場合、本手順を実行してください。」

#### AWS管理者パラメータの登録

- 「パラメータ管理」>「AWS管理者パラメータ」>「フィルタ」>「更新」  
「ホスト名」「オペレーション」「ユーザー名」「初回パスワード」「グループ名」を入力して「更新」を押下

一覧/更新

No.	ホスト名*	オペレーション*	パラメータ		
	オペレーション*	ユーザー名*	初回パスワード*	グループ名*	
1	exastro-it-automation	2020/05/28 11:00_1:環境A	cloud-system-temp	CStemplate2020@	cloud-system-temp

※\*は必須項目です。

戻る 更新



#### POINT

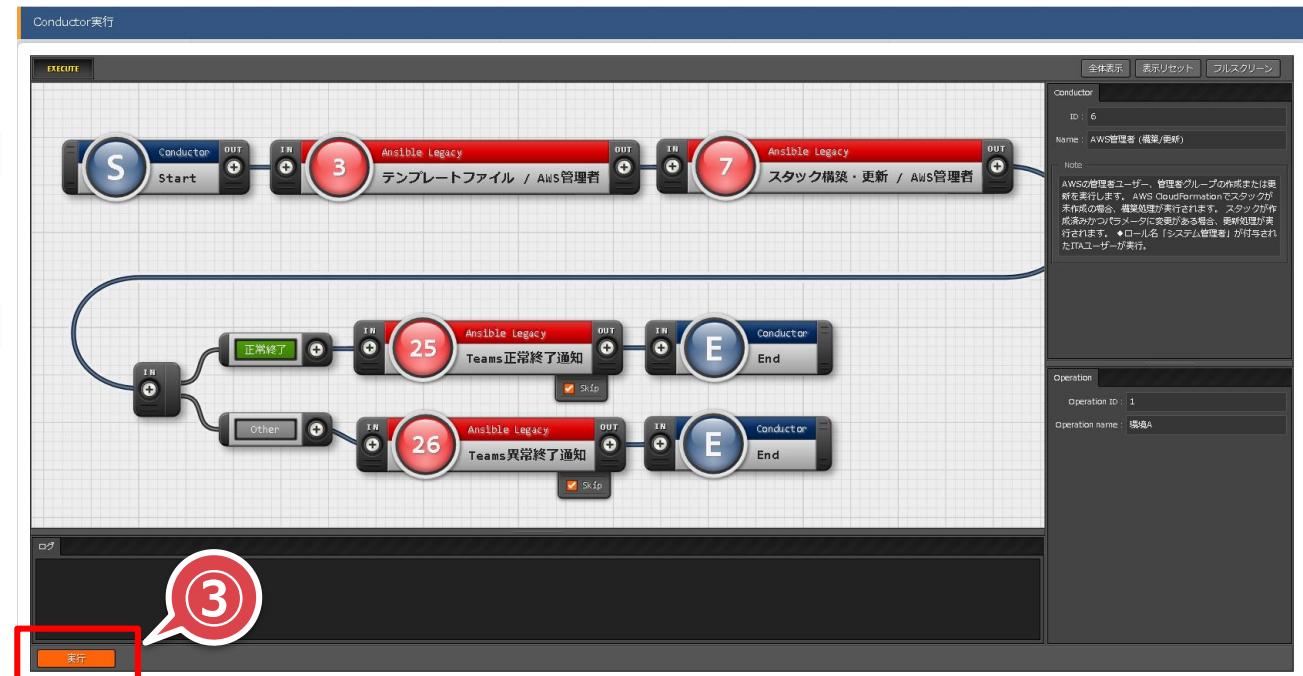
ホスト名	: 本ITA導入サーバのホスト名を選択 (デフォルトは" exastro-it-automation")
オペレーション	: 任意のオペレーションを選択
ユーザー名	: 任意のユーザ名を入力
初回パスワード	: 任意のパスワードを入力
グループ名	: 任意のグループ名を入力

### 3.7 AWS管理者のIAMユーザー作成実行と登録 (2/3)

#### AWS管理者作成の実行

- 「Conductor」>「Conductor作業実行」

「Conductor[一覧]」の「AWS管理者（構築／更新）」を選択し、「オペレーション[一覧]」から「AWS管理者パラメータ」へ登録したオペレーションを選択して画面最下部の「実行」を押下



### 3.7 AWS管理者のIAMユーザー作成実行と登録 (3/3)

#### AWSアクセスキー管理\_AWS管理者の登録

- 「AWS管理者パラメータ」へ登録した情報でAWSへログインし、「AWS管理者パラメータ」へ登録したユーザ名の「アクセスキー」「シークレットキー」を作成して取得  
※手順については「導入準備 – AWS環境準備 – ①システム管理者のIAMユーザー準備」を参照してください。
- 「AWSアクセスキー管理」>「AWS管理者」>「登録」>「登録開始」  
「ホスト名」「オペレーション」「アカウントID」「アクセスキー」「シークレットキー」を入力して「登録」を押下

登録

No	ホスト名*	オペレーション	パラメータ
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/> アカウントID* <input type="text"/> アクセスキー* <input type="text"/> シークレットキー

\*<sup>\*</sup>は必須項目です。

戻る 登録 ②

①

#### POINT

ホスト名	: 本ITA導入サーバのホスト名を選択 (デフォルトは" exastro-it-automation")
オペレーション	: 任意のオペレーションを選択
アカウントID	: 1.で利用したAWS管理者のアカウントIDを入力
アクセスキー	: 1.で作成したAWS管理者のアクセスキーを入力
シークレットキー	: 1.で作成したAWS管理者のシークレットキーを入力

### 3.8 インフラ管理者&インフラユーザーのIAMユーザー作成実行と登録 (1/4)

- 以降のITAの作業は「aws-admin (AWS管理者)」で実施してください。
- 「インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ」の「ユーザーネーム」「初回パスワード」「グループ名」をCSテンプレートのデフォルト値から変更する場合、本手順を実行してください。

#### ■ インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ登録

- 「パラメータ管理」>「インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ」>「フィルタ」>「更新」  
「ホスト名」「オペレーション」「ユーザーネーム／インフラ管理者」「初回パスワード／インフラ管理者」「グループ名／インフラ管理者」「ユーザーネーム／インフラユーザー」「初回パスワード／インフラユーザー」「グループ名／インフラユーザー」を入力して「更新」を押下

一覧/更新

No	ホスト名*	オペレーション*	ユーザーネーム/インフラ管理者*	初回パスワード/インフラ管理者*
1	exastro-it-automation	2020/05/28 11:00_1:環境A	cloud-system-temp1	CStemplate2020@

\*は必須項目です。

戻る 更新

①

POINT

ホスト名

: 本ITA導入サーバのホスト名を選択  
(デフォルトは" exastro-it-automation")

オペレーション

: 任意のオペレーションを選択

ユーザーネーム/\*\*

: 任意のユーザ名を入力

初回パスワード/\*\*

: 任意のパスワードを入力

グループ名/\*\*

: 任意のグループ名を入力

②

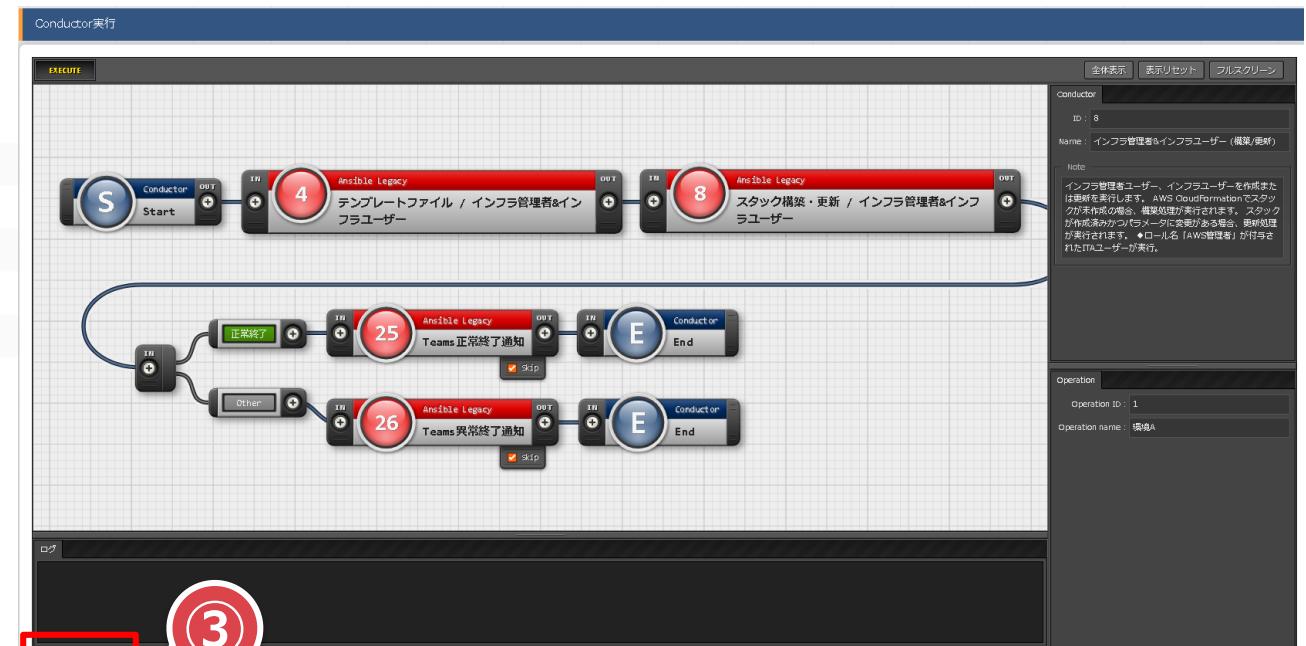
### 3.8 インフラ管理者&インフラユーザーのIAMユーザー作成実行と登録 (2/4)

#### インフラ管理者&インフラユーザー作成の実行

- 「Conductor」>「Conductor作業実行」

「Conductor[一覧]」の「インフラ管理者&インフラユーザー（構築／更新）」を選択し、「オペレーション[一覧]」から「インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ」へ登録したオペレーションを選択して画面最下部の「実行」を押下

The screenshot shows the 'Conductor [List]' interface. A table lists various tasks, with the 8th row, 'インフラ管理者&インフラユーザー (構築/更新)', highlighted by a red box and circled with a red number 1. The task description indicates it's for creating or updating an IAM user for infrastructure management.



The screenshot shows the 'Operations [List]' interface. A table lists operations, with the 1st row, '環境A', highlighted by a red box and circled with a red number 2. This row corresponds to the operation created in step 2. The table includes columns for ID, Name, Start Date, End Date, Region, and Log URL.

### 3.8 インフラ管理者&インフラユーザーのIAMユーザー作成実行と登録 (3/4)

#### AWSアクセスキー管理\_インフラ管理者とインフラユーザーの登録

1. 「インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ」へ登録した情報でAWSへログインし、  
それぞれの「アクセスキー」「シークレットキー」を作成して取得  
※手順については「導入準備－AWS環境準備－①システム管理者のIAMユーザー準備」を参照してください。
2. 「AWSアクセスキー管理」>「インフラ管理者」>「登録」>「登録開始」  
「ホスト名」「オペレーション」「アカウントID」「アクセスキー」「シークレットキー」を入力して「登録」を押下  
→前項1で作成したインフラ管理者の「アクセスキー」「シークレットキー」を入力
3. 「AWSアクセスキー管理」>「インフラユーザー」>「登録」>「登録開始」  
「ホスト名」「オペレーション」「アカウントID」「アクセスキー」「シークレットキー」を入力して「登録」を押下  
→前項1で作成したインフラユーザーの「アクセスキー」「シークレットキー」を入力

### 3.9 オートスケール用パラメータの登録 (1/3)

- ・以降のITAの作業は「infra-admin（インフラ管理者）」で実行してください。
- ・CSテンプレートのConductor「オートスケールWebサーバ（構築／更新）」などを実行する場合、本ページ以降の手順に沿ってパラメータ登録を実施してください。

#### AutoScaleパラメータへの登録

- 「パラメータ管理」>「AutoScaleパラメータ」>「フィルタ」>「更新」  
「AMI」「キーペア名／Webサーバ名」「SSL証明書」を入力して「更新」を押下

The screenshot shows a modal window titled '一覧/更新' (List/Update) for managing AutoScale parameters. The window has a header with '△閉じる' (Close). The main area is titled 'パラメータ' (Parameter) and contains a table with columns: No., AMI\*, インスタンスタイプ\*, キーペア名/Webサーバ名\*, 最小インスタンス数\*, 最大インスタンス数\*, ELB証明書\*, ELBログプレフィックス\*, 日時, and 最終更新者. A single row of data is shown with the following values: AMI is 'ami-0...', Instance Type is 't2.small', Key Pair is '...', Min Instances is '3', Max Instances is '12', ELB Certificate is '...', ELB Log Prefix is 'cloud-system-temp1', and both Date and Last Updated are '自動入力'. A red box highlights the entire row of input fields. A red circle labeled '①' points to the 'ELBログプレフィックス' field. A red box highlights the '更新' (Update) button at the bottom, which is also labeled with a red circle '②'. Below the table, a note says '※\*は必須項目です。' (\* is a required item).

#### POINT

以下の項目に、「導入準備 – AWS環境準備 – ②EC2 Auto Scaling利用の環境準備」で用意した以下の情報を入力

AMI : AMI ID

キーペア名／Webサーバ名 : キーペア名 (Webサーバ用)

SSL証明書 : ELB用のSSL証明書

### 3.9 オートスケール用パラメータの登録 (2/3)

#### Bastionパラメータへの登録

- 「パラメータ管理」>「Bastionパラメータ」>「フィルタ」>「更新」  
「KeyName」 「AMI」を入力して「更新」を押下



#### POINT

以下の項目に、「導入準備 – AWS環境準備 – ②EC2 Auto Scaling利用の環境準備」で用意した以下の情報を入力

KeyName : キーペア名（踏み台サーバ用）

AMI : AMI ID

### 3.9 オートスケール用パラメータの登録 (3/3)

#### キーペアの登録

- 「Ansible共通」>「ファイル管理」>[CPF\_SECRET\_KEY\_BASTION]の「更新」を押下  
「ファイルを選択」を押下して、「導入準備－AWS環境準備－②EC2 Auto Scaling利用の環境準備」で用意した踏み台サーバー用の「キーペア (pemファイル)」を選択して「事前アップロード」を押下。  
アップロードが完了したら「更新」を押下。
- 同様の手順で「CPF\_SECRET\_KEY\_WEB」へWebサーバー用の「キーペア (pemファイル)」を登録してください。

一覧/更新

素材ID	ファイル埋込変数名*	ファイル素材*	備考
2	CPF_SECRET_KEY_BAS	現在アップロードされたファイル: si-template-sydney.pem <input type="button" value="ファイルを選択"/> <input type="button" value="si-template-sydney.pem"/> <input type="button" value="事前アップロード"/>	踏み台サーバの秘密鍵

※\*は必須項目です。

① ファイルを選択ボタン  
② 事前アップロードボタン  
③ 更新ボタン

POINT

デフォルトで中身が空白の「dummy\_key.pem」が登録されています。



## 4. 補足

## 4.1 システム管理者&AWS管理者のパラメータ廃止と復活（1/2）

「システム管理者」「AWS管理者」で実行するConductorを、「インフラ管理者」「インフラユーザー」で実行させたくない場合、以下の手順を実施してください。

### ■ システム管理者 & AWS管理者のパラメータ廃止

※本項目の作業は「administrator（システム管理者）」で実施してください

- 「AWSアクセスキー管理」>「システム管理者」>「フィルタ」>「3.6 システム管理者のAWSアカウント情報登録」で登録した「システム管理者」のパラメータの「廃止」を押下  
同様の手順で「3.7 AWS管理者のIAMユーザー作成実行と登録（3/3）」で登録した、「AWS管理者」のパラメータを廃止してください。



一覧/更新

更新	廃止	N	ホスト名	オペレーション				
				ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時
更新	廃止	①	exastro-it-automation	1	環境A	2020/08/27 10:44	2020/10/01 12:00	2020/08/27 10:44

フィルタ結果件数: 1

## 4.1 システム管理者&AWS管理者のパラメータ廃止と復活（2/2）

「システム管理者&AWS管理者のパラメータ廃止」の手順実行後、「システム管理者」「AWS管理者」でConductorを実行する必要がある場合、以下の手順を実施してください。

### ■ システム管理者&AWS管理者のパラメータ復活

※本項目の作業は「administrator（システム管理者）」で実施してください

- 「AWSアクセスキー管理」>「システム管理者」>表示フィルタの廃止欄で「廃止のみ」を選択>「フィルタ」前頁にて廃止した「システム管理者」のパラメータの「復活」を押下。  
同様の手順で「AWS管理者」のパラメータを復活させてください。



一覧/更新						
更新	廃止	No.	ホスト名	オペレーション		
				ID	オペレーション名	基準日時
更新	廃止	①	Exastro-it-automation	1	環境A	2020/08/27 10:44

フィルタ結果件数: 1

## 4.2 Teams連携通知の登録（1/4）

Conductorの実行結果をTeamsへ通知させたい場合は、本項目の手順を実行してください。

### ①TeamsのWebhookURLの準備

- 通知を受けたいチャンネルのWebhookURLを用意してください。

【参考】WebhookURL取得の手順概要（Teamsにて実施）

- ①通知を受けたいチャンネルの右の「…」>「コネクタ」を押下
- ②「Incoming Webhook」の「追加」もしくは「構成」を押下
- ③任意の名前を入力して「作成」を押下してWebhookURLを取得

## 4.2 Teams連携通知の登録 (2/4)

### ②Teams連携管理の登録

- 「Teams連携管理」>「通知設定」>「登録」>「登録開始」  
「ホスト名」「オペレーション」「通知先Webhook」を入力して「登録」を押下

#### POINT

- |            |   |
|------------|---|
| ホスト名       | : 本ITA導入サーバのホスト名を選択<br>(デフォルトは" exastro-it-automation") |
| オペレーション    | : 任意のオペレーションを選択   |
| 通知先Webhook | : 「Teams連携通知の登録-Webhook準備」で用意した<br>WebhookURLを入力        |

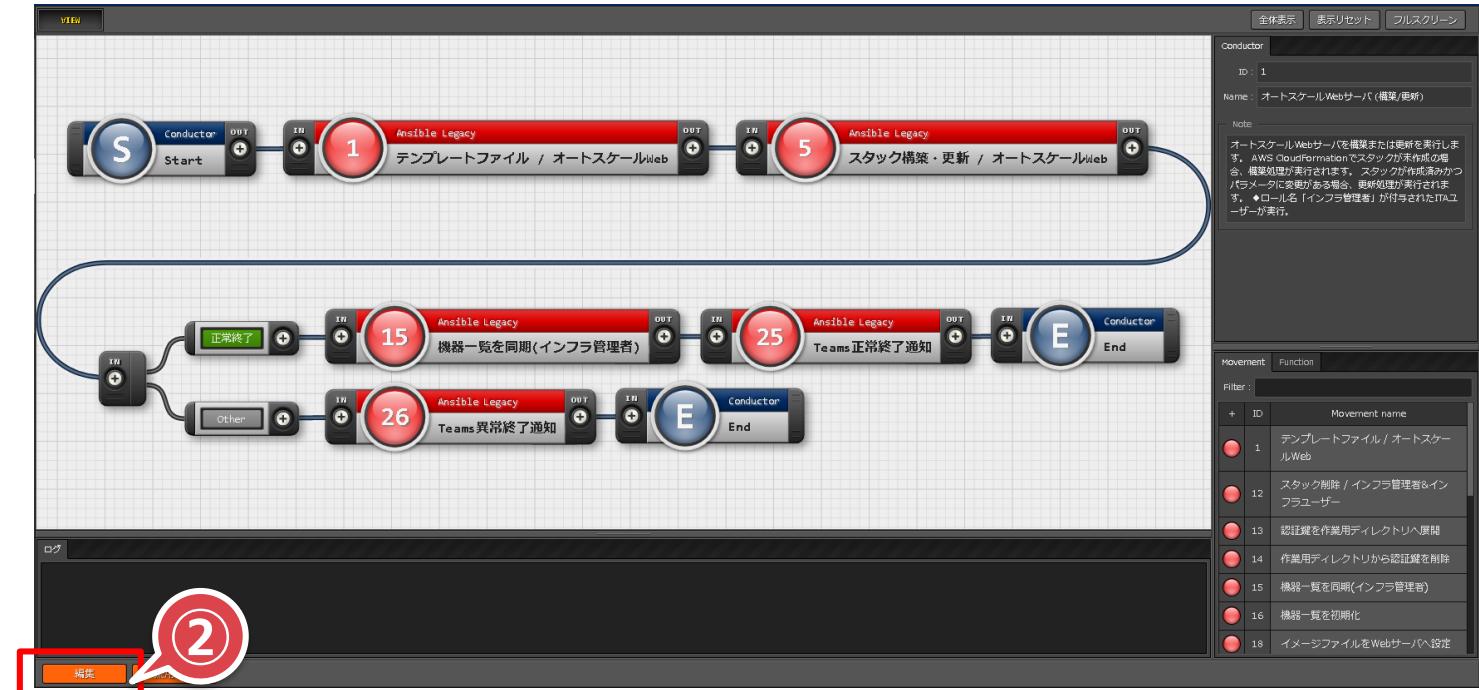
## 4.2 Teams連携通知の登録 (3/4)

### ③Conductorの編集

- 「Conductor」>「Conductorクラス一覧」>「フィルタ」>Teamsへ通知させたいConductorの「詳細」>移動先画面下部の「編集」を押下



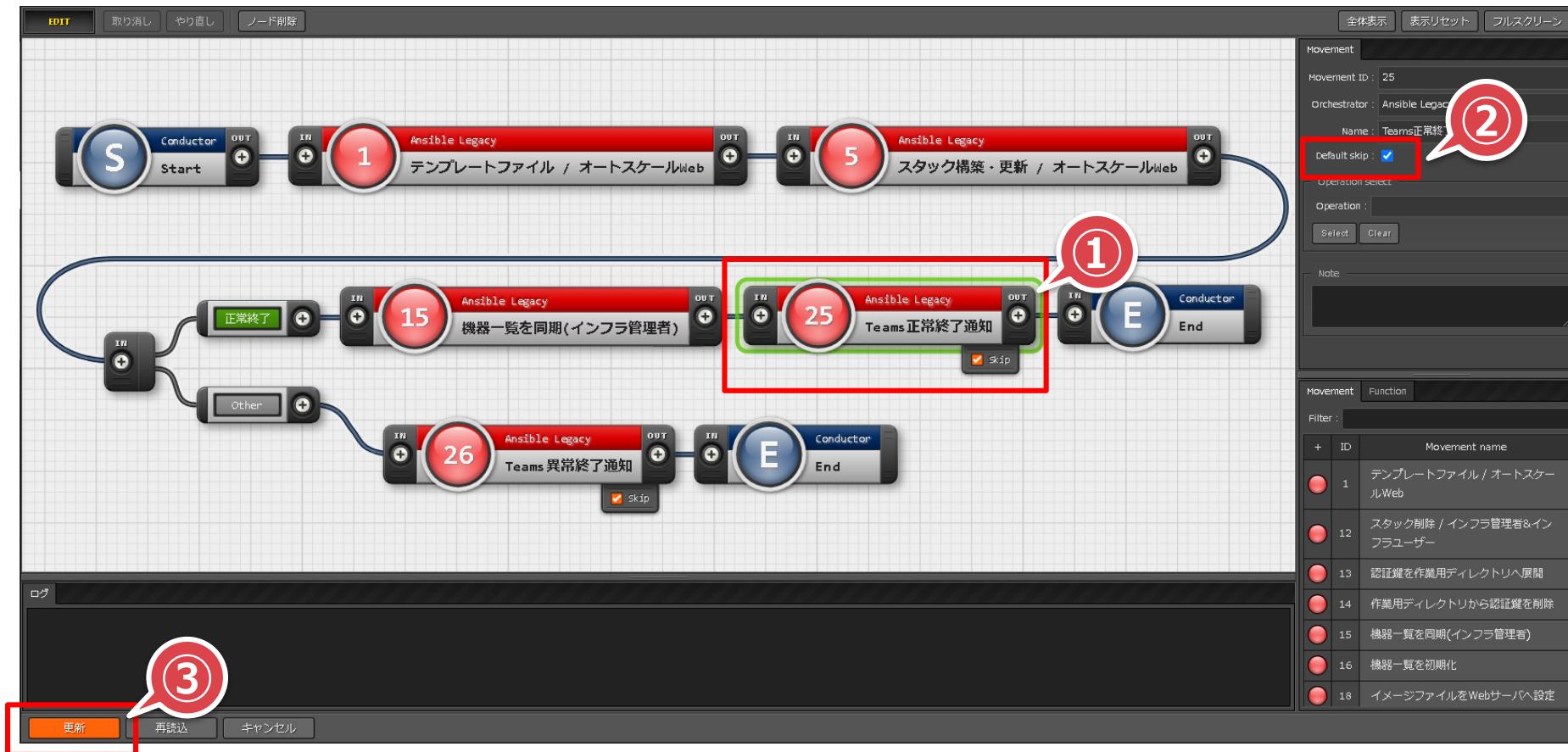
ConductorクラスID: 1  
名称: オースケールWebサーバ (構築/更新)  
説明: オースケールWebサーバを構築または更新を実行します。  
AWS CloudFormationでスクリプトを作成の場合、構築処理が実行されます。スクリプトが作成済みかつパラメータに変更がある場合、更新処理が実行されます。  
◆ロール名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザーが実行。  
オースケールWebサーバ(Ec2へPlaybook実行)オースケールWebサーバのEc2インスタンスに対してPlaybookを実行します。  
実行するPlaybookを変更する際はmovementを新規作成し、「イメージファイルをWebサーバへ設置」と変更してください。  
◆ロール名「インフラユーザー」が付与されたITAユーザーが実行。  
オースケールWebサーバを削除します。  
S3バケットも削除対象。  
◆ロール名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザーが実行。  
GuardDuty構築または更新を実行します。  
AWS CloudFormationでスクリプトを作成の場合、構築処理が実行されます。スクリプトが作成済みかつパラメータに変更がある場合、更新処理が実行されます。GuardDuty構築は、オースケールWebサーバ構築後に実行してください。  
◆ロール名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザーが実行。  
構築されたGuardDutyを削除します。  
◆ロール名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザーが実行。  
ANS管理者 (構築/更新)  
ANSの管理者ユーザー、管理者グループの作成または更新を実行します。  
AWS CloudFormationでスクリプトを作成の場合、構築処理が実行されます。スクリプトが作成済みかつパラメータに変更がある場合、更新処理が実行されます。  
◆ロール名「システム管理者」が付与されたITAユーザーが実行。  
作成済みのANS管理者ユーザーを削除します。



## 4.2 Teams連携通知の登録 (4/4)

### ③Conductorの編集

- 「Teams正常終了通知」を押下して画面右側の「Default skip」のチェックを解除、  
「Teams異常終了通知」を押下して画面右側の「Default skip」のチェックを解除して、画面下部の「更新」を押下。



## 4.3 メニューグループ／メニュー概要（1/5）

### メニューグループ

※ITAデフォルトのメニューグループや参照用メニューグループは説明を省略。



メニューグループ名	説明
パラメータ管理	CSテンプレートのパラメータを登録・管理するメニューグループ
構築/更新シナリオ	CSテンプレートの構築/更新シナリオを登録・管理するメニューグループ
削除シナリオ	CSテンプレートの削除シナリオを登録・管理するメニューグループ
ドキュメント管理	設計、構築、評価のドキュメントを登録・管理するメニューグループ
AWSアクセスキー管理	AWSのアカウント情報を管理するメニューグループ
Teams連携管理	Teams通知連携の情報を管理するメニューグループ
マスタ管理	CSテンプレートのパラメータのマスタ情報を定義するメニューグループ
代入値管理	Movement「機器一覧同期」により登録され、Webサーバ構築のシナリオから参照される値を管理するメニューグループ。原則手動での変更は行わない

## 4.3 メニューグループ／メニュー概要 (2/5)

### パラメータ管理



メニュー名	説明
共通パラメータ	システム全体のパラメータを管理するメニュー
AWS管理者パラメータ	AWS管理者のパラメータを管理するメニュー
インフラ管理者&インフラユーザー パラメータ	インフラ管理者/インフラユーザーのパラメータを管理するメニュー
AutoScaleパラメータ	AutoScaleスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
S3パラメータ	S3スタックで使用するパラメータを管理するメニュー
SNSパラメータ	SNSスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
CloudTrailパラメータ	CloudTrailスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
Networkパラメータ	Networkスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
SecurityGroupパラメータ	SecurityGroupスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
Bastionパラメータ	Bastionスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
VPCflowlogsパラメータ	VPCflowlogsスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
CloudWatchAlarmパラメータ	CloudWatchスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
GuardDutyパラメータ	GuardDutyスタックで使用するパラメータを管理するメニュー

## 4.3 メニューグループ／メニュー概要 (3/5)

### 構築／更新シナリオ



メニュー名	説明
オートスケールWebサーバ	オートスケールWebサーバの構築/更新シナリオを管理するメニュー
GuardDuty	GuardDutyの構築/更新シナリオを管理するメニュー
AWS管理者	AWS管理者の構築/更新シナリオを管理するメニュー
インフラ管理者&インフラユーザー	インフラ管理者/インフラユーザーの構築/更新シナリオを管理するメニュー

### 削除シナリオ



メニュー名	説明
オートスケールWebサーバ	オートスケールWebサーバの削除シナリオを管理するメニュー
GuardDuty	GuardDutyの削除シナリオを管理するメニュー
AWS管理者	AWS管理者の削除シナリオを管理するメニュー
インフラ管理者&インフラユーザー	インフラ管理者/インフラユーザーの削除シナリオを管理するメニュー

## 4.3 メニューグループ／メニュー概要 (4/5)

### マスタ管理

メニュー	説明
Stack定義	Stack名・テンプレートファイルを定義するメニュー
AWSリージョン	構築するAWSリージョンを定義するメニュー
実行フラグ	実行フラグを定義するメニュー
システム環境	システム環境を定義するメニュー
インスタンスタイプ	構築するインスタンスのインスタンプタイプを定義するメニュー
EC2ブロックデバイス	ブロックデバイスのマッピングを定義するメニュー
ログ保管期間	ログの保管期間を定義するメニュー ※S3に格納されるログは自由入力のため対象外
リトライ回数	構築失敗時のリトライ回数を定義するメニュー

### 代入値管理

メニュー	説明
Bastion	踏み台サーバをホストグループに登録するためのメニュー
WEB	WEBサーバをホストグループに登録するためのメニュー

## 4.3 メニューグループ／メニュー概要 (5/5)

### ドキュメント管理



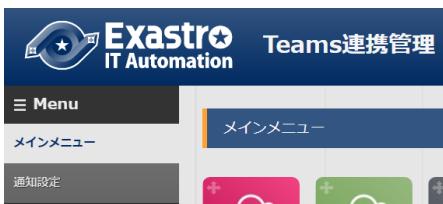
メニュー名	説明
基本設計	基本設計書を管理するメニュー
詳細設計	詳細設計書を管理するメニュー
構築資料	構築資料を管理するメニュー
評価資料	評価資料を管理するメニュー

### AWSアクセスキー管理



メニュー名	説明
システム管理者	システム管理者のAWSアカウント情報を管理するメニュー
AWS管理者	AWS管理者のAWSアカウント情報を管理するメニュー
インフラ管理者	インフラ管理者のAWSアカウント情報を管理するメニュー
インフラユーザー	インフラユーザーのAWSアカウント情報を管理するメニュー

### Teams連携管理



メニュー名	説明
通知設定	Teams通知設定を管理するメニュー

## 4.4 Conductorの参照パラメータ(1/11)

- Conductor「オートスケールWebサーバ(構築/更新)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	項目名
1	オートスケールWebサーバ (構築/更新)	パラメータ管理	共通パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			AutoScaleパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			S3パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			SNSパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			CloudTrailパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			Networkパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			SecurityGroupパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			Bastionパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			VPCflowlogsパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			CloudWatchAlarmパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
		構築/更新シナリオ	オートスケールWebサーバ	メニュー内の全ての項目を参照。
			AWSアクセスキー管理	インフラ管理者
			Teams連携管理	通知設定
			Ansible共通	グローバル変数管理 以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」
				ファイル管理 以下のファイル埋込変数を参照。 「CPF_STARTUP」 「CPF_DEVICE_LIST_SYNC」

## 4.4 Conductorの参照パラメータ(2/11)

■ Conductor 「オートスケールWebサーバ(構築/更新)」で参照するテンプレートファイルは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニューグループ名	メニュー名	テンプレート埋込変数名
1	オートスケールWebサーバ (構築/更新)	Ansible共通	テンプレート管理	TPF_AutoScale TPF_Security_KMS TPF_Storage_S3 TPF_AppIntegration_SNS TPF_Management_CloudTrail TPF_Network TPF_SecurityGroup TPF_Bastion TPF_Management_VPCflowlog TPF_Management_CloudWatchAlarm

## 4.4 Conductorの参照パラメータ(3/11)

■ Conductor「オートスケールWebサーバ(EC2へPlaybook実行)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	項目名
2	オートスケールWebサーバ (EC2へPlaybook実行)	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
			AutoScaleパラメータ	「キーペア名/Webサーバ」
			Bastionパラメータ	「KeyName」
		AWSアクセスキー管理	インフラユーザー	「アクセスキー」 「シークレットキー」
			グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」
		Ansible共通	ファイル管理	以下のファイル埋込変数を参照。 「CPF_SECRET_KEY_BASTION」 「CPF_SECRET_KEY_WEB」 「CPF_IMAGEFILE」 「CPF_DEVICE_LIST_SYNC」
			代入値管理	WEB
				「項目」

## 4.4 Conductorの参照パラメータ(4/11)

■ Conductor「オートスケールWebサーバ(削除)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	項目名
3	オートスケールWebサーバ (削除)	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
		削除シナリオ	オートスケールWebサーバ	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアクセスキー管理	インフラ管理者	「アクセスキー」 「シークレットキー」
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」
			ファイル管理	以下のファイル埋込変数を参照。 「CPF_STARTUP」 「CPF_DEVICE_LIST_SYNC」

## 4.4 Conductorの参照パラメータ(5/11)

- Conductor 「GuardDuty(構築/更新)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	備考
4	GuardDuty(構築/更新)	パラメータ管理	共通パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			GuardDutyパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
		構築/更新シナリオ	GuardDuty	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアクセスキー管理	インフラ管理者	メニュー内の全ての項目を参照。
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 [「GBL_PROXY」]

- Conductor 「GuardDuty (構築/更新)」で参照するテンプレートファイルは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	テンプレート埋込変数名
4	GuardDuty (構築/更新)	Ansible共通	テンプレート管理	TPF_Security_GuardDuty

## 4.4 Conductorの参照パラメータ(6/11)

■ Conductor 「GuardDuty(削除)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	備考
5	GuardDuty(削除)	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
		削除シナリオ	GuardDuty	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアクセスキー管理	インフラ管理者	「アクセスキー」 「シークレットキー」
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

## 4.4 Conductorの参照パラメータ(7/11)

- Conductor 「AWS管理者(構築/更新)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	備考
6	AWS管理者(構築/更新)	パラメータ管理	共通パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			AWS管理者パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
		構築/更新シナリオ	AWS管理者	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアクセスキー管理	システム管理者	メニュー内の全ての項目を参照。
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

- Conductor 「 AWS管理者(構築/更新)」で参照するテンプレートファイルは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	テンプレート埋込変数名
6	AWS管理者(構築/更新)	Ansible共通	テンプレート管理	TPF_AWS_AdminUser

## 4.4 Conductorの参照パラメータ(8/11)

- Conductor 「AWS管理者(削除)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	備考
7	AWS管理者(削除)	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
		削除シナリオ	AWS管理者	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアクセスキー管理	システム管理者	「アクセスキー」 「シークレットキー」
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

## 4.4 Conductorの参照パラメータ(9/11)

- Conductor「インフラ管理者&インフラユーザー(構築/更新)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	備考
8	インフラ管理者&インフラユーザー(構築/更新)	パラメータ管理	共通パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
		構築/更新シナリオ	インフラ管理者&インフラユーザー	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアクセスキー管理	AWS管理者	メニュー内の全ての項目を参照。
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

- Conductor「インフラ管理者&インフラユーザー(構築/更新)」で参照するテンプレートファイルは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	テンプレート埋込変数名
8	インフラ管理者&インフラユーザー(構築/更新)	Ansible共通	テンプレート管理	TPF_AWS_InfraUser

## 4.4 Conductorの参照パラメータ(10/11)

■ Conductor「インフラ管理者&インフラユーザー(削除)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	備考
9	インフラ管理者&インフラユーザー(削除)	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
		削除シナリオ	インフラ管理者&インフラユーザー	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアクセスキー管理	AWS管理者	「アクセスキー」 「シークレットキー」
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

## 4.4 Conductorの参照パラメータ(11/11)

■ Conductor 「【定期実行】機器一覧同期」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	項目名
11	【定期実行】機器一覧同期	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
			AutoScaleパラメータ	「キーペア名/Webサーバ」
			Bastionパラメータ	「KeyName」
		AWSアクセスキー管理	インフラユーザー	「アクセスキー」 「シークレットキー」
			グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」
		Ansible共通	ファイル管理	以下のファイル埋込変数を参照。 「CPF_SECRET_KEY_BASTION」 「CPF_SECRET_KEY_WEB」 「CPF_DEVICE_LIST_SYNC」
			代入値管理	WEB
				「項目」



**Exastro** 